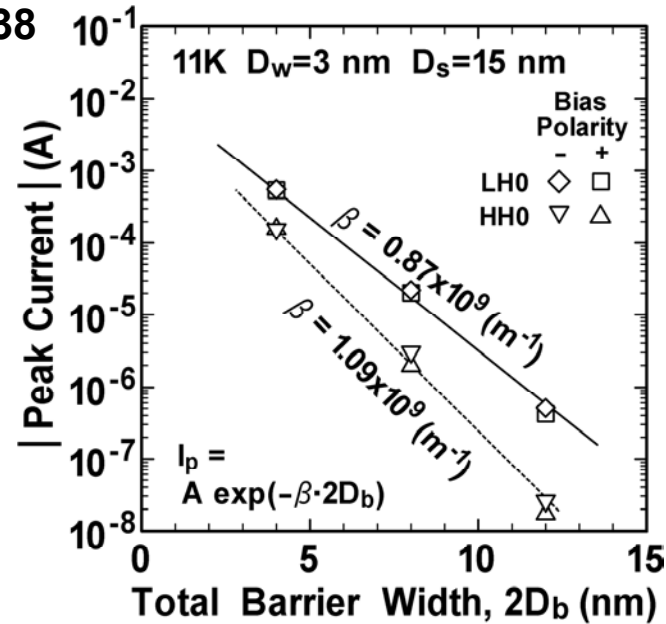
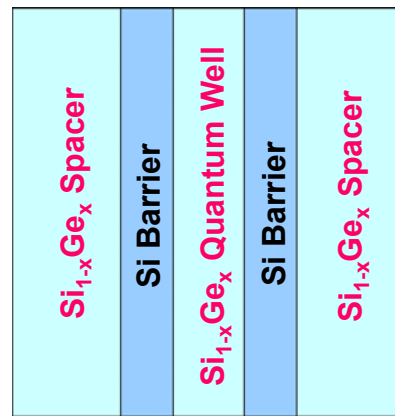
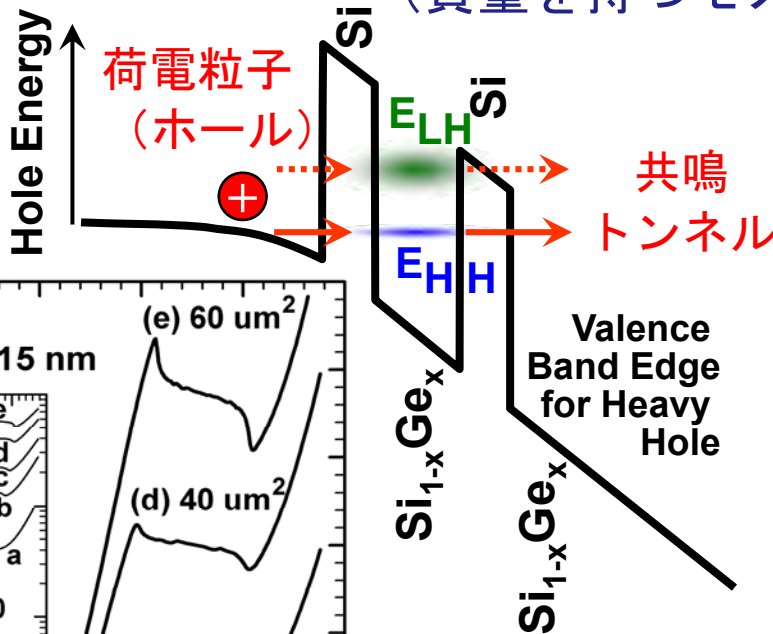
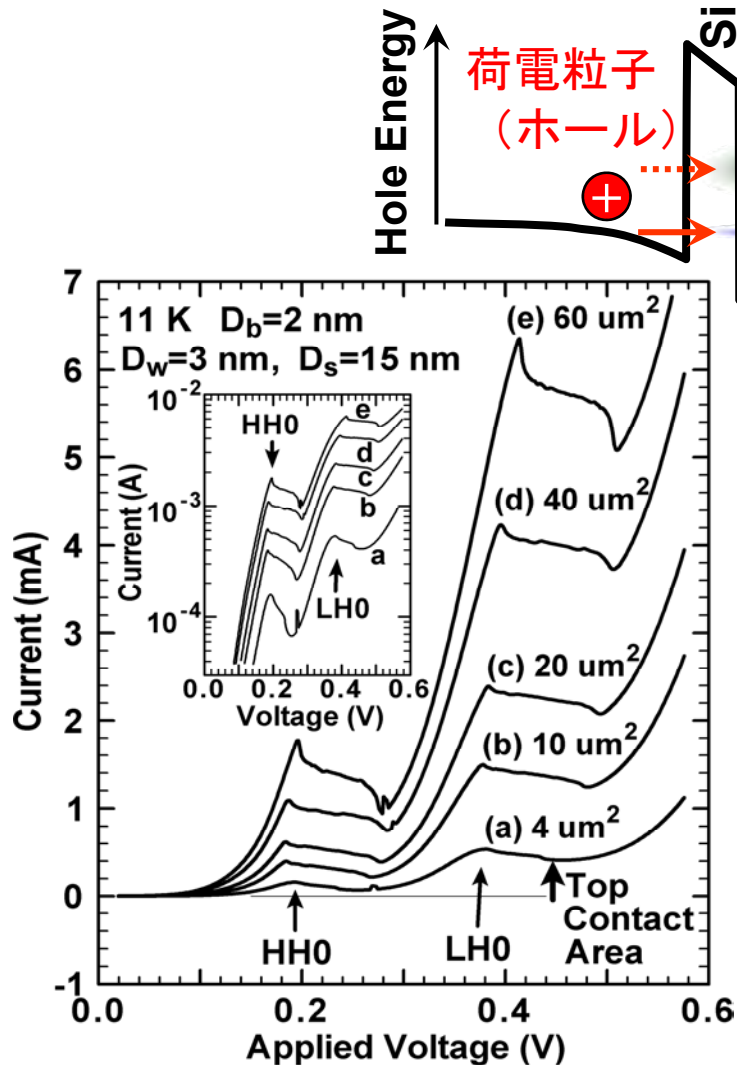


Semicond. Sci. Technol., 22 (2007) S38

壁を乗り越えられないはずの粒子も . . .  
(質量を持つモノ)



壁を薄くすれば、  
トンネルできる。

壁には、  
共鳴を引き起こす  
有用な役割がある。

壁は個性を守る一方、  
コミュニケーションを  
許可している。

 **Masao Sakuraba**  
@Masao\_Sakuraba

フォローする

世界中の多くの国々に知人・友人がいます。威圧・威嚇・恫喝・挑発行為は不毛です。同じ地球の上で生きる人同士が互いの存在を認め合い、尊重し合えるように、粘り強く交流を深めることに力を注ぐべきだと思います。武器も兵器も必要ありません。

Masao Sakuraba @Masao\_Sakuraba

"軍学共同（大学・研究機関における軍事研究）反対アピール署名" no-military-research.a.la9.jp/#.V-QKfVAiA-8.... | "大学教員や研究者（・・・退職者や企業の研究者・技術者も含む）ばかりでなく、大学院生・学生も、そしてこの問題に関心を持つ市民の方々からの賛同も歓迎"

21:05 - 2016年9月23日

1,729件のリツイート 2,182件のいいね

[https://twitter.com/Masao\\_Sakuraba/status/779532088626196481](https://twitter.com/Masao_Sakuraba/status/779532088626196481)

- Hiroshima
  - Nagasaki
  - Okinawa
- (Victims of Himeyuri Students, ...)

## Dresden, London, ...

 **Masao Sakuraba**  
@Masao\_Sakuraba

フォローする

空襲を実施した英国カンタベリー大主教「傷を癒やすには互いの痛みを理解し合い、友人になることが必要だ」"ドレスデン空襲70年で追悼式典 市民ら戦争の悲惨さかみしめる"（ドレスデン空襲では計約2万5千人が死亡）



ドレスデン空襲70年で追悼式典 市民ら戦争の悲惨さかみしめる

【ベルリン=共同】ドイツ東部ドレスデンが廃虚と化した第2次世界大戦末期の空襲から13日で70年となり、追悼式典が行われた。空襲で破壊され、2005年に再建された「フラウエン (...)

nikkei.com

3:14 - 2017年11月11日

13件のリツイート 24件のいいね

[https://twitter.com/Masao\\_Sakuraba/status/929306324084563968](https://twitter.com/Masao_Sakuraba/status/929306324084563968)

## Palestina, Siria, ...



Masao Sakuraba

@Masao\_Sakuraba

フォローする

"(このあらたに発見された) 深海底から放出される大量の二酸化炭素の地球炭素循環への貢献については、これまで認識されてこなかった"

[pubs.geoscienceworld.org/geology/articl...](https://pubs.geoscienceworld.org/geology/article/doi/10.1130/G38455.1)  
[www5a.biglobe.ne.jp/~tenrou/global...](http://www5a.biglobe.ne.jp/~tenrou/global...)

4:25 - 2017年12月15日

5件のリツイート 6件のいいね



[https://twitter.com/Masao\\_Sakuraba/status/941645279530328064](https://twitter.com/Masao_Sakuraba/status/941645279530328064)

資源を無駄に消費しないのは  
当たり前。

“もったいない”。

↓ だから、

現代の二酸化炭素排出量に対する  
考え方の方向性は間違っていない。

でも・・・仮説の根拠があやしい。

科学者の誠実さ・見識はどこへ？

「“科学技術“が進展すると武器・兵器開発に使われるのか？」という疑問

“ナイフ”の使い道を決めるのは人間である。

その使い道を決めたのは誰なのか？ ⇒ 決めた責任が問われる。

“人間の在り方”を発展させながら、“科学技術”に命を吹き込む。

研究と教育は科学の両輪であって、切り離すことはできない。